



きらめき

～光の子として歩みなさい～

〈聖書 エフェソの信徒への手紙5章8節〉

NO.13 学校法人岩手キリスト教学園機関誌
Jul.2025

特集

子どもと守る礼拝

豊かな育ちのために 認定こども園ひかりの子
新任園長、チャプレン紹介



IWATE CHRISTIAN
EDUCATIONAL INSTITUTE

見えない心の育ちを待つ



もりわけ かずき
森分 和基

岩手キリスト教学園 理事長
認定こども園宮古ひかり 園長
日本キリスト教団宮古教会 牧師

2025年度から理事長を仰せつかりました森分と申します。微力ではありますが、法人運営のために尽力したいと思えます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

長年、子どもの育ちについていろいろ考えてきました。人は基本的に体験して成長していくと思います。これは、子どもも大人も本質的には変わらないと思います。嬉しいことも、悲しいことも、楽しいことも、苦しいことも、様々な経験を通して育っていきます。その経験が多岐にわたる中で、子どもたち自身が取捨選択し、子どもたちが育ちたい方向性を決めていくものではないかと考えています。

体験して育っていくためには、時間がかかります。情操の育ちを考えるならば、成人になる過程で実を結ぶこともたくさんあるのではないかと思います。大人はどうしても背が高くなったとか、○○ができるようになったとか、目に見える成長に注目しがちです。それも見えない育ちではありませんが、目には見えない心が育つために、子どもたちの成長を信じて待つと

いう姿勢が大人には求められているのではないかと思います。

以前、テレビの特集の中で、小学校中学年にとつたアンケートを紹介していました。十分に体を動かして遊んでいない子どももほど、自己肯定感が低く、「自分は必要がない」「自分が嫌い」と思っている子どもが多いという結果が出ていました。子どもに必要な体験とは、自然の中で育つこと、心と体を十分に動かして遊ぶこと、子ども自身が考え、決断できる選択肢が必ず用意されることではないかと思えます。

私は、3歳以上児の子どもたちが園での生活の1日の終わりに「明日も一緒に遊ぼうな」と言ってくれたら嬉しいと思っています。それは、遊びの継続性があり、集団が形成されており、その一日を十分に遊び込んでいることがうかがえる言葉だからです。

世界の50カ所以上の場所でも、武力による紛争状態の場所があります。貧困のために、6秒に一人が亡くなっています。日本では、若年齢層の自殺率が世界トップクラスであり、その中で岩手県は全国

の中でワースト1。若い人たちが生きづらいと思う社会になっていると思えます。若い人たちの中でも小学生の自殺率は、ここ数年大幅に増えている状況にあります。そのように難しい社会情勢の中にあるからこそ、乳幼児期に十分に愛されて、しっかりと遊び込むことが必要だと考えています。その意味で、子どもたちがしっかりと遊び込んでいることは、平和の象徴と言っても過言ではないと思っています。

イエス様は「神の国はこのような者たち(子ども)のものである」と言われます。生きづらく、子ども自身が育ちづらい社会環境になっているからこそ、当法人ではしっかりと子どもたちを受け入れ、受け止め、子どもたちが心と体を伸びやかにして遊び、育つ環境を整えていきたいと思えます。

教職員も、保護者も、みんな子どもたちの育つ環境を整え、子どもたちの育ちを共に喜び合える法人運営を目指していきたいと思えます。



「ジーザス ラブズ ミー(イエス・キリスト《神さま》は私を愛している)、アイム オツケー(私もOK)、ユア オツケー(あなたもOK)」楽しいメロディーのつて園児たちのかわいらしい声が礼拝堂に響きます。自分はこの自分でOKだし、あなたもそのままでOK。友達と肩を組んで、お互いを励まし合いました。



I am OK! You are OK! 遠野聖光こども園

えながら歌う讃美歌、友達や家族を思っ捧げられるお祈り。少しずつ一人ひとりの心に温かいものが染みわたっていくようです。園児たちと一緒に礼拝を守る新生釜石教会の柳谷雄介牧師は「つい、大人の思っ通りにできる子やよくお話が聞ける子を『良い子』『よくできる子』と考えがち。けれど、すべての子どもがイエスさまの愛の中にいて受け入れられている。アイム オツケー、ユア オツケー。みんな愛されているのだ」と話しました。

特集 子どもと守る礼拝



お祈り 遠野聖光こども園

一方、盛岡市内にある青山幼稚園、のぞみこども園、きたくり保育園は6月、クリスマスチャンデ声楽家の吉村美穂さんを交え、盛岡3園合同の音楽礼拝を守りました。館坂橋教会の礼拝堂に各園の年長組・年中組の園児と教職員約60人が集合。園児たちがよく知っている讃美歌「この花のように」を全員で歌ってお祈りし、チャプレンの川崎献一牧師の聖書のお話に耳を傾けました。続いて行われたミニコンサートでは吉村さんがピアノの調べにのって子ども讃美歌やドイツ歌曲を熱唱。響きわたる美しい歌声と礼拝堂の神聖な雰囲気心動かされている様子の園児も多く、豊かなひとときを過ごしました。



盛岡3園合同の音楽礼拝

◆ ◆
神さまの愛のもと、一人ひとり異なる特徴や個性をもった人間として全存在を受けとめる姿勢は「キリスト教保育」の根幹です。神さまと出会い、心を動かす、感謝し、生きる力をはぐくむ場として岩手キリスト教学園の各施設は礼拝を大切にしてきました。年間を通した取り組みから、共に培われる子どもと教職員の姿を紹介します。

特集 子どもと守る礼拝

豊かな育ちのために

認定こども園ひかりの子

オリーブ課長 菅野 志歩

シャローム課長 武田 温美

毎週月曜日の礼拝

認定こども園ひかりの子は日詰教会から生み出され106年の歴史を歩んでいます。この歩みの中で、キリスト教保育の根幹でもある礼拝を子どもたちと一週間の始まりをくださる神さまに感謝し、ともに守ることを大切にしてきました。

礼拝は、賛美や聖書のお話、お祈りを通して神さまと出会い、神さまの大きな愛を感じる時間。学年ごとに礼拝を守ることで、子どもたちの心の中に豊かなものが芽生え、はぐくまれていきます。

0、1歳児は生活の中で保育者が賛美し、お祈りをする姿を見て、身体を揺らして口ずさんだり、手を組むことを真似たりします。2歳児は皆で礼拝を守って祈り、ハイタッチをして「シャローム」（平和がありますように）の挨拶を牧師の張仁恵園長や友だちと交わして喜びを味わいます。

3歳児は、日々経験を重ねていくうちに聖書のお話を聞き、自分の経験と照らし合わせて思ったことを自分の言葉で伝えられるようになります。それを牧師先生や教職員に受け止めてもらうことを通して、自分は「ありのままでよい」と感じます。

4、5歳児は、聖書の御言葉からさらに考えを深めます。例えば「互いに重荷を担いなさい」の御

言葉から、相手が困っていたらどうするかを問われると「重い物を持っていったら半分こしてあげる！」や「優しく大丈夫？って言う」等どのようにしたら相手が喜んでくれるのか、自分には何ができるのかを相手に寄り添って考え、皆の前で手を挙げて発表します。

相手を思いやる気持ちの大切さやありのままの自分が受け入れられ、愛されていることの喜び、希望。礼拝を通した日々の体験が一人ひとりの違いを認め、自己肯定感を高めていくことにつながっていきます。幼い日に神さまに出会い、宿った力が「いのちの種」となって今後の子どもたちの生きる力となっていくと信じています。



イースター記念礼拝



「イースターって卵探しだね！」子どもたちは毎年、卵探しを楽しみにしています。

「卵」は命の象徴。イースター記念礼拝は、神の独り子であるイエス・キリストが私たちの罪のために十字架にかかってくださったこと、3日目に死から復活されたことを感謝して守る大切な礼拝です。子どもたちも礼拝を通して神さまの大きな愛を知ります。

イースター記念礼拝の前日には、年長組がイエス・キリストの復活を祝い、礼拝をみんなで守ることに期待をもってイースターエッグの袋詰めをしました。当日は、牧師先生から聖書の話を聞き、みんなで「イースターおめでとう！」と声を揃え、イエス・キリストの復活を喜びました。



礼拝後の各クラスでのイースターエッグ探しでは「あつた！」「よかったね、おめでとう！」と卵を見つけるたびに大歓声。保育者や子どもたちの弾んだ声が飛び交いました。

イースターエッグはおうちに大切に持ち帰ります。イースターの意味を子どもたちが家族に伝えたり、一つの卵をみんなで分け合ったり、一つの卵をみんなで分け合ったりして食べたり。イエス・キリストの復活の喜びを分かち合うひとときとなったことをおうちの方から聞くことができました。

ペンテコステ記念礼拝

ペンテコステ記念礼拝当日、子どもたちと教職員が聖霊の象徴の色である赤色の物を身につけてひかりの子に集います。「みんな赤いね」「一緒に赤だね」と同じ色を身につけていることに喜びがあらわれます。

ペンテコステはイエス・キリストの弟子たちに神さまから聖霊が与えられ、キリストの教えを語り始めたことを記念する日。子どもたちは記念礼拝を通して教会が誕生した大切な日であることを知り、また、クラスではペンテコステの絵本を通して世界に教会があることを知り、たくさんの方が祈りを大切にす。礼拝の中で、なぜ赤の色を身につけるのか問われると、年長児は聖霊の象徴の色であることなどペンテコステの意味を自分の言葉で

しっかりと話していました。

聖書には神さまが世界中の人々を愛し、祈りでいつも繋がっていることが記されています。これからも子どもたちと一緒に祈り続けることを大切にしていきたいです。

礼拝後には、園庭にひかりの子、アガベ保育園の子どもたちと教職員全員が集まり、十字架をイメージして記念撮影。みんなで喜びを分かち合いました。



花の日礼拝



花の日礼拝は、神さまの創造の素晴らしさと深い愛を知ることや神さまの愛が私たち一人ひとりに向けられていることを喜び感謝する時として守ります。ひかりの子では毎年、全園児と教職員の家庭からお花を持ち寄り、年長組がフラワーアレンジメントにしてお世話になっている方々に贈ります。子どもたちは花を一本ずつ手に取りながら「初めて見た花だ!」「いい香りがするね」と自分のお気に入りを見つけ、思い思いに生けていました。

この日は、花の日礼拝に参加を希望されたおうちの方と共に、花束を作ったり、礼拝に出席したり、消防署や警察署に訪問したり、一緒に活動します。その中で、おうちの方にも礼拝の意味や子どもたちがどのような経験をしているかを実際に体験していただきます。「目には見えないもの」を大切にしているキリスト教保育に触れて共感したおうちの方からは、感謝の言葉もいただきうれしくなりました。

花の日礼拝は、子どもたちとおうちの方、教職員が礼拝堂に集ま

り、たくさんの花に囲まれながら守ります。牧師先生が聖書を通してお話してくださり、神さまが創造した花や私たちには命があること、命は尊いものであることを胸に刻みました。

礼拝後、年長組は紫波警察署と紫波消防署を訪れ、日頃の感謝の気持ちを込めて讃美歌や手話、フラワーアレンジメント、ポスターをプレゼント。子どもたちは慣れない環境で「ドキドキする!」と話しながらも、警察署では「どうやって困っている人を助けるのか」など憧れを抱きながら質問し、楽しい交わりの時を持ちました。消防署では、実際に夢を叶え消防士になっている卒園生に出会い、その姿を通して子どもたちの憧れはさらに膨んでいました。その卒園生の担任だった保育者との再会にも感激し、卒園してもいつまでも繋がっていることに感謝しました。

職員が園医や日詰商店街の方々にもフラワーアレンジメントと手書きのメッセージを届け、地域の方々と交流。神さまが創造されたものの美しさと恵みを改めて心にとめる一日でした。



感謝を込めて地域の方へ



収穫感謝礼拝

収穫感謝礼拝は、米や野菜などの収穫の実りを与えてくださった神さまと、それらを作ってくださった方々に感謝して喜びを分かち合うと共に、飢え苦しんでいる方々の事を心にとめながら守ります。

春、子どもたちは、畑で何を育てたか保育者を交えて話し合います。今年度は年長組がさつまいもとピーマン、バケツで育てるお米に挑戦。年中組は、枝豆とズッキーニ、オクラを栽培することに決め、期待をもって苗を植えました。礼拝や絵本、作物の栽培を通して、雨や風、太陽の光など実りのためにたくさんの恵みが与えられていることに気づきます。目には見えない神さまに感謝し祈る姿がありました。

収穫感謝礼拝当日は、子どもたちが収穫したさつまいもや枝豆、教職員と園児の各家庭から持ち寄った作物を感謝を込めてお捧げします。礼拝献金は「チャイルド・ファンド・ジャパン」に届け、発展途上国のフィリピンとスリランカに送っています。



また、各家庭に食材や缶詰などの寄付を募り、県内を中心に食べ物に困っている世帯を支援している「フードバンク岩手」にフリースクールこといろのメンバーが訪れ、困っている友だちを支えたいという思いと一緒に集まった食べ物をお届けしました。

収穫感謝礼拝には毎年、たくさんのおうちの方が参加してくださいます。保育者や他の保護者と会食の準備をしながらの会話が楽しかった、一緒に歌う讃美歌が良かったという声も。礼拝への参加を通して、ひかりの子の教育・保育への理解が広がっていると感じます。さらに献品された果物、野菜等は近隣の方々にも届けて収穫の恵みを分かち合いました。



「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」

(コリントの信徒への手紙一

3章6節)

これはキリスト教の伝道に大きな働きをしたイエス・キリストの弟子パウロの言葉です。種をまき、水を注ぐのは人間かもしれない。しかし成長させてくださるのは見えない神さまの力です。これからも神さまからのたくさんの恵みに感謝し、一人ひとりの心の成長に寄り添いながら、共に歩んでいきたいと願っています。

たくさんの
恵みに感謝





菊池千咲 園長

1984年聖光幼稚園(現・遠野聖光こども園)採用。同園教頭、副園長を経て2025年4月園長。1984年に受洗。遠野教会責任役員、奏楽担当。遠野市出身。

趣味:動物と触れ合うこと
ドライブ、旅行、
ゲーム、映画鑑賞

好きな食べ物:イチゴ

好きな言葉:
みんな違ってみんないい

愛され 守られた存在

遠野聖光こども園

私が保育者になっていなければ、夢は犬猫の獣医でした。しかし、死に直面すること、手術などを考えると怖いと思い諦めました。動物が好きなのは変わっていませんが…。私の母は教師でしたので小さいころから「こどものとも」などの絵本を読み聞かせてくれたり、歌を歌ってくれたりしました。その記憶は残っていて、保育に大変役立ちました。

子どもたちと遊んでいると色々なことを感じて伝えてくれます。「一緒に遊ぼう」と声がかかる。と最高にうれしくてまさに癒しの時。たくさんのお話を教えられる。子どもの声をよく聴くように、笑顔を保てるように心がけています。

一方、私にはずっと自分が嫌だなあと思っていることがありますが、それは、決断力が弱いことと、自分の思いや話をまとめて話す事ができないことです。自分でも何を話しているかわからなくなる時があり、聞いている人は更にわからなくなるかもしれません。それがいつも心に引っかかっています。

その私が園長になりました。職員みんなが協力してくれていることに感謝しています。時々「わたしでいいのかな」と考えてしまっていますが、神様からの恵みだと思えば感謝して務めていきたいと思っています。子どもたち保護者、職員みんなが神様から愛され、守られている存在だということを、キリスト教保育を通して伝えていきたいと思っています。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」を心にとめながら。



鳥潟 紘一 チャプレン

2022年に花巻市にある土沢教会に牧師として着任。今年度より遠野教会の牧師も兼務することになり、遠野聖光こども園のチャプレンに就任。1985年生まれ。農村伝道神学校卒業。秋田県大館市出身。

趣味:本気の散歩、バックカントリー(下手)

好きな食べ物:サンドイッチ

好きな言葉:人を粗末にしない

みんなすごい!

遠野聖光こども園

このたび、遠野聖光こども園のチャプレンに就任いたしました。牧師の鳥潟紘一と申します。4月からまだ三ヶ月ですが、日々どんどん成長し続ける子どもたちの姿には感動を覚えずにはいられません。また、そんな子どもたちを守る先生たちの真心に、敬服の念を深める毎日です。

「神を愛し、人を愛し、自然を愛する」。遠野聖光こども園に掲げる理念からは、身の周りのすべてが、神さまからのプレゼントであることを教えられる。神さまは、人の優しさや自然の恵みを通して、私たちに愛を示してくださっています。「生きろ生きろ」と、私たちの人生を励まして

くれしています。そのような目には見えないけれど大切な事柄に心を向けることのできる感性は、この難しい時代を生きるためにはとても重要な支えであると思います。本当に大事なものは目には見えません。けれど、それを感じる力を人間は持っています。

神さまの愛のもと、子どもも大人も、一人ひとりがかけがえのない存在であることを心に刻みながら、共に学び、豊かな心を育んでいきたいと願っております。子どもたちを真ん中に、そこに関わる皆さまの幸せを、毎日欠かさず祈っております。



～共に歩み、育つ～

新任園長、チャプレン紹介

2025年4月から、新たに4人の園長と2人のチャプレンが就任しました。園長は各施設のリーダーであり、土台となって子どもたちと教職員の成長を支えます。チャプレンは施設や組織で働く宗教者(牧師)で、子どもたちと保育者の豊かな育ちのために、一緒に礼拝を守って聖書のお話をしたり、保育や教職員の学びを支援したりする役割を担います。保護者や地域の方々とも積極的に交流したいと考えていますのでどうぞよろしくお願いします。



上堂ホサナ保育園での子ども礼拝。聖書のお話を語る川崎献一チャプレン



大原 敬 園長

郵政事務官などを経て、みたちチャペル牧師。1994年～2025年3月岩手キリスト教学園事務長。日詰幼稚園を経て2017年から2023年まで青山幼稚園副園長を兼任。2025年4月青山幼稚園園長。宮城県登米市出身。

趣味:ローカル列車の旅

好きな食べ物:納豆巻、

味噌煮込みうどん

好きな言葉:シャローム!!

ハレルヤ!!

小さな太陽たちに囲まれて

青山幼稚園

今日も子どもたちが「おはよう」と元気に登園してきました。「園長先生大好き」と飛びついてきてくれます。毎朝、青山幼稚園の「小さな太陽たち」に会えて、かわいさ、嬉しさを感じています。

青山幼稚園の特に良いところは「子どもたちの個性が輝いている」「一人ひとりを大切にしている保育が行われている」「地域の人々に愛されている幼稚園である」の3点だと自負しています。子どもたちが、大きくなっても自分が卒業した幼稚園を誇りに思い、どこで活躍しても、幸せな人生を力強く歩めるよう心から願っています。

私は1994年から学園に勤めはじめ今年で勤続31年。振り返れば人生の半分近くを青山幼稚園と共に歩んできたことになりました。地域に根ざしたキリスト教保育の働きを展開するため、代々の牧師・園長・関係者が祈り、地域の皆様と共に汗を流してきました。創立70周年の歴史の重みをかみしめつつ、厳粛な思いで大切な園長のバトンを受け取りました。神様の導きのもと、良き伝統を大切にはぐくみながら、次のステップに繋いでいきたいと考えています。

今後もお祈りとご協力をお願いいたします。



及川理恵 園長

県内外の保育園などで保育士として30年勤務。2024年8月日詰教会で洗礼を受け、クリスチャンに。2025年4月アガペ保育園園長。岩手県出身。

趣味:アコーディオン演奏
好きな食べ物:ごまだんご
好きな言葉:慈しみ

神さまとともに

アガペ保育園

今年度よりアガペ保育園の園長として遣わされ、新たな歩みを始めました。日詰教会から生み出されたこの園で、子どもたちとともに日々過ごせることに心から感謝しています。神さまは、私たち一人ひとりに尊い命を与えて下さいました。少子化が進む今だからこそ、出会えたすべてのお子さん・保護者の方を大切に、安心して過ごせる園とされるようにしていきたいと思っています。そして、キリスト教保育を行うものとして神さまがいつもいつしよにいてくださること、いいときもわるいときもどんなときも励ましてくださっていること、自分では愛されている価値ある存在であるということとともに感

じながら保育に努めていきたいと思えます。日々の生活の中で、子どもたちが自然に讃美歌を口ずさんだり、ままごと遊びの中で「おいのりをしよう!」と言葉にしながらいっぱいに集まり手を組んで目を閉じている姿が見られます。子どもたちの心に神さまからの豊かな恵みが与えられていることを実感し、喜びを感じました。神さまが導いて下さることを信じ、子どもたちと、保護者の方と、地域の方とともに歩んでいけるよう感謝する心を忘れない、与えられた役割を担っていききたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

子ども本位の保育とは

花巻で第23回学園研修会



「今こそ!キリスト教教育を」をテーマに、第23回学園研修会が1月12、13の両日、花巻市湯口の湯の杜ホテル志戸平で開かれました。学園9施設から教職員約130人が参加。子ども本位の保育について理解を深めました。

関西学院短期大学保育科教授の小見のぞみ先生がオンラインで講演。「子ども中心」「子どもの主体性尊重」「子どもの権利」などが強調されているのにもかかわらず、「子ども不本位」とも言える状況に陥りがちな教育・保育現場の課題を指摘しました。

大人の都合や自己満足によって子どもの潜在的な力を抑えたり、教育成果を急ぐあまり、子どもの個性やペースを無視して標準を強いたり。封建的な家族主義を基盤とした日本社会では、歴史的にも「子どもの権利」が浸透しにくかったといえます。

小見先生は子どもの本性を常に問いかけ理解する努力や、一人ひとりが持てる力を十分に発揮し、自らの意思決定で行動できる環境設定の重要性などを説明。違いを受容し愛する姿勢がキリスト教保育の根幹であることを強調し「今こそ、子ども本位のキリスト教保育を」と語りかけました。

教職員からは「標準にとらわれず、一人ひとりの今の育ちや個性を大切に、ありのまま受け止めてあげることが、その子の可能性を引き出し、自分らしく生きる力を育てることにつながるのでは」「大人の何気ない一言が、子どものその後の人生に大きく響く。良い方向に人生を変えていけるように一人ひとりと向き合い、寄り添いたい」「こうあってほしいという願いや思いが、子どもを操作していないか、自分の保育を振り返るきっかけになった。1日にできたことを振り返り、また次の日に繋げていく、連続的教育成果が得られていくということに共感した」などの感想が寄せられました。

2日目は学園顧問弁護士の渡部容子先生が「ハラスメントの被害者・加害者にならないために」と題して講演。ハラスメントに対して意識を高め、対策を講じていくことの重要性を学びました。



川崎なおみ 園長

延岡使徒教会担任教師、認定こども園土々呂幼稚園副園長を経て2025年4月館坂橋教会担任教師、のぞみこども園園長。神奈川県横浜市出身。

趣味(好きなこと):車の運転。
宮崎から山形まで1700kmを4往復したことがあります。
好きな食べ物:ケーキ
好きな言葉:聖書 ローマの信徒への手紙12章2節 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしてお自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことと、神に喜ばれ、また完全なものであるかをわきまえるようになりなさい。

心に残る園生活を

のぞみこども園

4月よりののぞみこども園の園長になりました館坂橋教会牧師の川崎なおみです。遠い宮崎から車で日本列島を大移動しました。前の園では、はじめはバス添乗員、その後、幼稚園と保育園の先生の資格を取り、聖書のお話をはじめ事務、保育、養護、用務員、畑の管理など何でもする便利屋副園長をしていました。東北・岩手県に住むのは初めてなので、冬をとっても楽しみにしています。

家族構成はハレルヤ先生が紹介していただきますのでご覧ください。神様がのぞみこども園にわたしを遣わして下さいと信じて、神様が喜んで下さることは何かな?と子どもたちや先生方と考えていきます。そして、楽しい子どもたちの心に残る園生活となるように祈りつつ、日々を過ごしていきたいと思っています。

ハレルヤ先生 使命を抱き

のぞみこども園

この4月から館坂橋教会へ牧師として赴任した川崎献一です。同時に岩手キリスト教学園の盛岡市内4園のチャプレンの立場でもあります。過去にも幼稚園、こども園のチャプレンをしたことがあります。特に前任地の宮崎県の土々呂幼稚園では子どもたちに「ハレルヤ先生」と呼ばれていました。礼拝前に必ず挨拶として「ハレルヤ!」と叫ぶからです。「ハレルヤ」とはヘブル語で「主を賛美します」という意味です。聖書に書かれている真の神は賛美されるべき方という信仰から

子どもたち、職員たち、保護者の方々にも聖書全体からの信仰を共有できれば幸いです。私は宮崎県生まれで、愛知県育ちです。鳥取県や栃木県でも牧師をしたことがあります。自分の子どもは3人いますが、2人(女子)は遠くの川崎市に住んでいます。全員、キリスト教の幼稚園出身です。長女は幼稚園で先生をしています。

盛岡の地は初めての私ですが、神に遣わされた場所です。命を持つ働くことが一番大事だと思っています。今後とも宜しくお願いします。



川崎 献一 チャプレン

民間企業等での勤務を経て牧師に。用瀬教会、都農教会、宇都宮上町教会、延岡使徒教会の主任担任教師を歴任。その間、附属幼稚園等の園長、理事長等を務める。2025年4月館坂橋教会主任担任教師となり、のぞみこども園チャプレンに就任。盛岡4園を中心に活動。宮崎県日向市出身。

趣味(好きなこと):歌うこと
好きな食べ物:寿司、パフェ
好きな言葉:聖書のことば、もれなく



りょうこう 2025年 福音館書店 絵・文 麻生知子

新しい絵本のスタイルへの挑戦とでもいいでしょうか。この絵本は天井からの目線でお話がすすんでいきます。温泉のゆったり感と、食べることに、旅が大好きという作者の絵と色の構成は、それに輪をかけたようにピッタリです。

あのうきうきするような「りょうこう」へのイメージ通り、おじいちゃんと孫の組み合わせも、ゆったり平和感が溢れています。この夏におすすめの絵本です。温泉めぐりの旅に出かけたくまりました。（佐々木 章）

「6月23日」「8月6日」「8月9日」「8月15日」。先日、10代になった我が子と「忘れてはいけない4つの日」の話をしました。でも、もっと小さい子どもたちに平和について話そうと思ったら、難しさを感じることに、ありませんか？そんな時、絵本は素敵な助け舟になってくれます。平和や戦争をテーマにした良い絵本は沢山ありますが、その中からダイレクトに平和を語った一冊を今回ご紹介したいと思います。

「へいわってどんなこと？」

平和を考えることは、戦争の恐ろしさ、罪深さを考えることでもあります。そして、いま当然のように享受している平和な日々が、どんなに尊くて大切なものかを考える事にもなります。

この日本でも、平和を願う叫びが、通用しない日が近づいているのではないかと、恐ろしくなる昨今です。子どもたちの大人になる時が、どうか平和な時代でありますように…と祈りを込めて、愛する子どもたちと、この夏休みに平和について話してみませんか。

「やっぱり平和がいちばん！」「平和っていいね！！」そんな会話から、次世代の平和が芽吹いていくに違いありません。（浜田陽子）



へいわってどんなこと

2011年 童心社
絵・文 浜田桂子

その他の平和を考えるおすすめ絵本

「ぼくがラーメンたべているとき」
長谷川義史（教育画劇）
「せんそうとへいわ」
たにかわしゅんたろう・Noritake（プロダクション）
「せかいでいちばんつよい国」
デビッド・マッキー（光村教育図書）



☆7月・8月中、この誌面でご紹介した絵本を善隣館書店でご購入くださった方に、粗品（絵本キャラクターの絵はがき）を差し上げます！ご購入方法・ご来店時、お電話でのご注文時「きらめき」を見ました！とお伝えください。（発送も承ります。送料を実費ご負担ください。送料185円～）

(有)キリスト教センター善隣館書店
〒020-0025
岩手県盛岡市大沢川原3-2-37
奥羽キリスト教センター1階
TEL/FAX 019-654-1216



伝えたい本の力 ～夏編～

善隣館書店の書店員の皆さんに、この夏、おすすめの絵本を紹介してもらいました。ページをめくり、想像の羽を広げれば、時代を超え、世界中どこへでもはばたくことができます。くすっと笑える本、疲れた心にそっと寄り添ってくれる本、ちょっと怠け気味の自分に活を入れてくれる本もあるかもしれません。子どもも大人も、一人ひとりにふさわしい、素敵な一冊に出あえる夏になるといいですね。

戦争や災害の悲しいニュースも絶え間なく伝えられる昨今。つらい思いをしている人のことを考えたり、平和の尊さを語り合ったりする時間も大切にしたいものです。



善隣館書店員おすすめの1冊



今日

2013年 福音館書店
訳 伊藤比呂美
絵 下田昌克



先日、あるお客様が出産直後のお母さんに寄り添うような絵本を贈りたいと、善隣館書店に来店されました。そのときお薦めし、買っただいたのがこの絵本「今日」（2013年刊、伊藤比呂美翻訳）です。ニュージーランドの子育て支援施設の壁に貼ってあった作者不明の詩です。その詩に挿絵が加わった小さな絵本です。

そこにはまず、シンクのお皿は洗われず、ベッドもぐしゃぐしゃ、浸けといたおむつは臭く、窓ガラスも汚れてるなどなどがつづられています。それを読んだら、「だらしない、今日一日何をしていたの？」とか思われるかもしれませんね…。

でも、詩の後半には、何もしてなかったわけではなく、とてもとても大切なことをしていたことが、描かれています。

10年以上も前に出版され、多くの母親たちの共感を呼んだこの絵本。再読してみて、「今日」もただひたすら、おっぱいやって、泣きやむまでだっことして、かくれんぼして、ぶらんこゆすって…20年以上前の自分の子育ての日常がそこにはありました。

逃げ出したいけど投げ出せない、家の中は片付かないけど、何にも代えがたい育児の日々。当時の自分がオーバーラップしてきます。子育てに追われる日々の一つ一つがすごく大切なことをしていたんだって、母親に寄り添ってくれる1冊です。

訳者が編集後記にこうアドバイスしています「すばら・がさつ・ぐうたら」この呪文は育児だけじゃなく、様々な場面で効きます！と。この夏も汗まみれでもがいているお母さんがいっぱいいると思います。なんとか乗りきって欲しい。「すばら・がさつ・ぐうたら」で行こう！（大森紀代美）

認定こども園ひかりの子

保育教諭 藤原 静香(ふじわら・しずか)

ひかりの子の誕生会は、保護者を招いて一人ひとりの誕生日を大切にお祝いしています。一人ひとり名前を呼んで、園長先生からカードや冠をプレゼントします。先生からのプレゼントでは、歌に合わせておんぶや抱っこをして、ホールを1周しながらタッチをしてみんなから祝福してもらいます。お祈りを通して、生まれる前から神さまに守られ、命を与えられて今日まで、たくさんの人に愛されていることが感じられる大切な日です。

また、保育者や友だちからプレゼントされる歌や劇なども楽しみの一つです。一人ひとりが十分に楽しめるよう年齢に合わせたものを考えます。みんなの前で発表すること、子どもたちは楽しみにしているようです。神さまに命を与えられ、みんなから愛されて生まれてきたことをこれからも伝えていきたいと思います。

誕生会 みんなに愛されて



アガベ保育園

園長 及川 理恵(おいかわ・りえ)

やっほー！築山あそび



アガベ保育園の園庭には築山があり、子どもたちの好奇心を育むことのできる遊び場となっています。身近な自然に親しむことをねらいとして遊びに取り組む中で、子どもたちから、さまざまな発見や気づきが生まれています。

坂道の途中の大きな草のコブを見つけ、両足でそのコブに上がり「やっほー！」と手を振って意気揚々。そこからジャンプがすることにも気づき、夢中で遊んでいます。また、ツツジの花を摘みながら「赤」「ピンク」と色の違いに目を留め、草花を用いた「おべんとうづくり」にも心を躍らせています。この遊びは継続して楽しんでおり、自然の中で自ら関わりを考え、表現する力が育まれていることを十分に感じることができます。これからも、築山あそびを通して神さまが与えてくださった自然の恵みに感謝しながら、子どもたちと存分に楽しんでいきたいと思っています。



きらめきつうしん

各園から子どもたちや教職員の様子をお伝えします

一緒に作る楽しさ実感！ ～牛乳パックで水路遊び～

認定こども園青山幼稚園

保育教諭 村山 美緒(むらやま・みお)

砂遊び中、川作りをしていた年中児の「水がすぐになくなっちゃう」という発言から始まった水路作り。ご家庭にも協力して頂き、牛乳パックで作りました。水が上手く流れるようになってきたことで、大喜びの子どもたち。しばらく遊ぶと今度は流れた水が溜まらないことに気がきます。袋を用意して土を掘り、子ども同士で袋を押さえながら水を流し込むと…「溜まってる！」「もっと水を持って来よう！」とジョウロを片手に水道場へ。何度も往復する子どもたちの笑顔は太陽のように輝き、「今度はこうしよう！」とアイデアを出し合いながら遊びを作っていく姿はいきいきしています。

その後、年長児との関わりの中でジョウロの傾ける角度を調節する様子をじっくり見る姿がありました。すぐに自分も！と、ジョウロの水を最後までこぼさずに水路へ流し込むことに成功。年長児の遊び方を見て、真似して、吸収して、活かす。小さな子どもでもすぐ実践する力があることに驚かされました。



馬の里 遠足

認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

教頭 藤原 ひとみ(ふじわら・ひとみ)

天気に恵まれた5月の下旬。4、5歳児が園バスに乗って遠野馬の里へ遠足に出かけました。馬の里へ着くとさっそく2頭のポニーが出迎えてくれて乗馬体験開始。ヘルメットと上着を着用すると緊張した表情で乗っていましたが、ポニーの背中の揺れに慣れるとピースをしたり、ニコニコ笑顔を見せたりと余裕の表情に。その後は二ンジンあげるえさやり体験をしたり、厩舎でたくさんの馬を間近で見たりしてふれあいを楽しみました。

この日はなんと2日前に産まれたばかりの子馬も見ることができたラッキーデー！！ポニーや馬の優しい目、温もりが気持ちよい背中、フサフサの長いしっぽ…と短い時間の中でも心に残る良い体験ができました。「また、来たいね～」「かわいかったね」と話しながら園に帰る子ども達でした。



認定こども園宮古ひかり

主幹保育教諭 清川 和子(きよかわ・かずこ)

花いっぱい 笑顔いっぱい

宮古市の「花いっぱい運動」の活動に3年前から参加しています。今年も120株余りの花苗が届きました。ポットの花苗をプランターに移し替える作業を年長児みんなで行いました。何度も行き来して水を汲み土を湿らせる作業をしてから花苗をプランターに植えました。ポットから花苗を取り出す時に中々取れず苦戦していましたが一度コツを教えてもらって自分できている子もいました。間隔を見て3〜4つの花苗をきちんとプランターに収め元気に育つようにと願いを込めて根元の土を手で押さえている姿がありました。次の日から朝一番に外に出て大きなジョーロに水を汲み水やりを頑張っています。その姿を見て年中・年少組も水やりをしています。きれいな花が咲くようにみんなで大切に生長を見守っていこうと思います。



家庭的保育事業ぶどうのき

園長 佐々木 妙子(ささき・たえこ)

楽しい「三鉄散歩」!

2025年度は進級児2名、新入園児1名の3名でスタートし、5月に1名入園して4名で過ごしています。毎日散歩をしながら空の鳥を見たり、声を聴いて真似したり。お花や蟻などをじっと見ては捕まえようと追いかけて遊ぶ姿も見られます。昨年度から何度か、山口団地駅から三鉄に乗って宮古駅まで行き(2分〜3分)、市役所子ども広場で遊んで、また三鉄に乗って帰ってくるお散歩(約1時間)を楽しみました。三鉄の利用者の皆さんが「かわいい!」と目を細めて喜んでくださり、車掌さんも笑顔で迎えてくださいます。子どもたちは、良い緊張感を持ち、静かに車窓を楽しみます。今年度は4月に1回乗り、お散歩に行ってきました。ポケモン列車、Kiki & Lala列車等様々なデザインの列車があるのでどの列車に乗れるか楽しみです。市役所だけではなく、いろいろな所に三鉄で行きたいなと心がわくわくする三鉄散歩です。



認定こども園のぞみこども園

保育教諭 中村 泉(なかむら・いずみ)

自然にふれて



のぞみこども園の散歩コースで岩手大学のグランド側にある原っぱ。とても広く、春には桜が満開になりお花見を楽しめます。様々な草花がたくさんあって子どもたちの大好きな場所です。

2歳児にじ組はお散歩が大好き!! お友達と手を繋いで並んで上手に歩けるようになりました。「きょうはどこいくの〜?」と楽しみにしています。原っぱに着くと自由散策スタート。広い原っぱを思いっきり走ったり、お花を摘んだり。今は虫探しに夢中で、石を持ち上げ土を掘るとダンゴムシやミミズ、カタツムリを発見!! 触れることは少し怖いようですがじっくり観察を楽しんでいます。

自然の中にと子どもたちは「探し名人」になります。子ども目線の驚きや発見に私たちもたくさん気づかされ、学んでいます。これからも散歩先での「出会い」を大切に散歩を楽しんでいきたいと思っています。

のぞみ学童保育クラブ

放課後児童支援員 遠藤 百合(えんどう・ゆり)

仲間との時間

のぞみ学童は、2018年4月に開設され、今年8年目を迎えました。今年の4月には10名の1年生が入所し、現在は37名の児童が在籍しています。毎日、「先生! 今日のおやつはなあに?」と元気に学校から帰って来ると、放課後の時間をゆったりと過ごしています。

宿題を終えるとそれぞれ好きなあそびを見つけ、仲間と一緒に学年を越えた交流を元気いっぱい楽しんでいます。

もうすぐ迎える夏休み、掃除などの毎日の活動の他、ワクワクするようなたくさんの行事が待っています。学童の仲間との関わりの中で思いやりの心を養いながら、様々な体験ができるよう支援していきたいと思っています。



きたくり保育園

保育士 森田 万央(もりた・まお)



身も心も心地よく

きたくり保育園周辺にはたくさんの散歩コースがあり、子ども達もそれぞれの場所へ行くことを楽しみに過ごしている日々です。きたくり保育園では通称『どんぐりロード』『冷たい水の場所』など言葉で子ども達が場所をイメージでき、大人も子どももわくわくしながら過ごせる散歩コースがあります。また近隣の消防署、東北農業研究センター、厨川駅など、地域との交流もできています。

散歩へ行く際、未満児は散歩車の中から、また保育士におんぶをされて景色を眺めたり、友達や先生と手を繋いで歩くことを喜んだりしています。時折、散歩車や背中揺れが心地よくて、うとうとしてしまうことも。以上児は友達と手を繋いで、「今日は何をして遊ぶ?」「虫探ししよう」などとこれからの遊びを楽しみにしながら歩いています。豊かな自然を与えられ地域に見守られながら身も心も心地よく過ごせることに感謝しつつ、これからも子ども達と散歩を楽しんでいきたいです。

学園の教育・保育施設は2025年7月現在、認定こども園5施設、小規模保育所2施設、家庭的保育事業所1施設、保育所1施設です。他に学童保育クラブ1施設、フリースクール1施設を運営しています。キリスト教保育を柱に各園が連携し、地域の子育て世帯のよりどころとしての働きを目指しています。未就園児の親子等を対象にした子育て支援事業にも取り組んでいます。日程は、各園へお気軽にお問い合わせください。

●認定こども園青山幼稚園(園長 大原 敬)
(保育機能施設すみれ)

盛岡市青山3-6-27
電話019-647-0223

●認定こども園めぐみ遠野聖光こども園
(園長 菊池千咲)

遠野市中央通り3-10
電話0198-62-2150

●認定こども園ひかりの子(園長 張仁恵)
(フリースクールこという)

紫波町日詰字下丸森130
電話019-672-2542

●認定こども園のぞみこども園(園長 川崎なおみ)
(のぞみ学童保育クラブ)

盛岡市館向町21-7
電話019-624-5651

●認定こども園宮古ひかり(園長 森分和基)
宮古市西町3-3-26

電話0193-62-6845

●上堂ホサナ保育園(園長 千葉真理子)
盛岡市上堂1-4-10

電話019-656-0235

●アガベ保育園(園長 及川理恵)
紫波町日詰字郡山駅184-1

電話019-613-2635

●ぶどうのき(園長 佐々木妙子)
宮古市山口3丁目2-23

電話0193-65-6283

●きたくり保育園(園長 前田直子)
盛岡市厨川1-7-1

電話019-641-4330

上堂ホサナ保育園

園長 千葉 真理子(ちば・まりこ)

「わらべうた」って楽しい!!



上堂ホサナ保育園では昨年度から一年に10回ほど「わらべうたの会」を取り入れています。語りかけるような優しい「わらべうた」を耳で聴き、保育者のしぐさを目で見ながら、体全体を使って遊びます。

子どもたちは毎回登場する繰り返しのフレーズ「ととけっこー」「夜が明けたー」「まめでっぼう」「起きてきなー」などの言葉を覚えて口ずさんでいます。色とりどりのリトミックスカーフを使った「いないいないばー」や「洗濯あそび」は特にお気に入り、キラキラした目で楽しんでます。

子どもたちのにこにこ笑顔から、心が安定していく様子がうかがえ、大切な育ちに繋がっていると感じています。



フリースクールこという

ひかりの子 フリースクール係

小野 香織(おの・かおり)

神様の恵みの中で



フリースクールこというは、2016年にひかりの子から生み出された、子どもたちの居場所の一つです。こというの活動の中で今年度特に大切にしていることは、アガベ保育園との交流です。子どもたち、職員との交わりや、誕生会や礼拝に参加することで、交流を深めています。

プランターに植えていたいちごが日に日に赤みを増して、ついに真っ赤になり、いよいよ収穫する時がきました。2歳児と一緒に職員が読み聞かせする「いちご」の絵本のお話に耳を傾け、収穫し、こというのメンバーが小さく切って、みんなでいただきました。収穫しやすいようにサポートしたり、食べやすい大きさに考えて切ったりする中に笑顔と喜びがありました。そしてその喜びは、その日だけのことでなく、いちごの成長を見て楽しみ、収穫を心待ちにし、共に味わうすべての時間にもたらされていました。

次の日の朝の会のエピソードを話すコーナーで、「さっき園庭で会った女の子が、いちごおいしかったねと言ってくれた」と、メンバーが嬉しそうに教えてくれました。神さまの恵みに感謝です。



学園ニュース掲示板～Information

第14期 理事・評議員 監事の任期開始 改正私立学校法に対応 6月13日から

改正私立学校法の施行等に対応するため4月から6月にかけて、学校法人岩手キリスト教学園の第140回～第142回理事会、第125回・第126回評議員会が、盛岡市の舘坂橋教会で開かれました。理事・評議員・監事の改選等を審議、承認。6月13日に開催された第126回評議員会（定時評議員会）の終結をもって第13期と第14期の役員が交代しました（第14期役員は別表の通り）。

今回の法改正は学校法人のガバナンスを実効性のある形に整える狙いがあります。業務を執行する理事と理事会、それを監査する監事や評議員・評議員会の役割、権限が整理され明確に定められました。このため、教職員選出の評議員の数が制限されるなど役員の数・構成も大きく変わりました。長年、役員として貢献いただき13期をもって退任された方々に心から感謝いたします。

2025年度の園児・職員数（7月現在）

	園 名	3歳未満	3歳以上	合計	教職員
認定こども園	青 山	5	55	60	21
	遠 野	28	47	75	26
	ひかりの子	40	102	142	35
	のぞみ	28	83	111	40
	宮古ひかり	27	74	101	33
小規模	ホ サ ナ	11	0	11	8
保育所	ア ガ ペ	13	0	13	7
家庭的保育	ぶどうのき	4	0	4	4
保育所	きたくり	34	41	75	26
合計		190	402	592	200

※のぞみ学童・在籍者37人、フリースクールこいろ・在籍者2人

※きたくり職員1人が、のぞみ学童支援員を兼任(教職員実人数119人)

※法人本部職員は青山に2人、きたくり1人、のぞみに1人(善隣館書店出向職員を含む)

※満3歳児は3歳未満に数えています

岩手キリスト教学園 第14期役員

No.	氏名	選出区分	定数	選任機関	
【理 事】					
1	森 分 和 基	理事長	2名以上 5名以内	理 事 会	
		認定こども園宮古ひかり園長			
2	張 仁 恵	代表業務執行理事1			
		認定こども園ひかりの子園長			
3	川 崎 な お み	代表業務執行理事2			
		認定こども園のぞみこども園長			
4	菊 池 千 咲	代表業務執行理事			
		認定こども園めぐみ遠野聖光こども園長			
5	大 原 敬	代表業務執行理事			
		青山幼稚園長			
6	高 橋 寿 雄	学識経験者選出	3名以上 5名以内		
7	佐々木 京子	学識経験者選出			
8	秋 山 信 愛	学識経験者選出			
9	岡 あ や こ	学識経験者選出			
10	前 田 直 子	学識経験者選出			
11	松 浦 裕 介	教区推薦選出	1名		
【監 事】					
1	加 藤 直 樹	★	2名	評 議 員 会	
2	佐 藤 真 名	★			
【評議員】					
1	藤 原 ひ と み	教職員選出（遠野）	3名以上 5名以内		
2	及 川 理 恵	教職員選出（日詰）			
3	佐々木 妙子	教職員選出（宮古）			
4	千 葉 律 子	教職員選出（盛岡）			
5	恒 川 舞	卒園生選出	2名以上 4名以内		
6	佐 藤 誠	卒園生選出			
7	石 川 裕 子	卒園生選出			
8	伊 藤 光 介	卒園生選出			
9	鳥 潟 紘 一	学識経験者選出	3名以上 5名以内		
10	塩 井 ミ ツ 子	学識経験者選出			
11	里 木 英 人	学識経験者選出			
12	小 田 島 淳 子	学識経験者選出			
13	深 澤 秀 男	教区推薦選出	2名以上 3名以内	理 事 会	
14	鈴 木 道 也	教区推薦選出			
15	遠 藤 清 賢	教区推薦選出			

編集後記

わたしの家は森の中にあるのですが、朝は様々な鳥の声で毎日目が覚めます。朝4時に。おかげさまで寝不足です。素敵な環境でお昼寝をしている子供達を見て、羨ましいと思いつつ、沢山お昼寝をしてすくすく大きくなってほしいと目尻が下がる毎日です。(小)

改正私立学校法の施行、理事長を務められた村上義治先生の退任等に対応するため法人本部は例年以上の忙しさ。新体制がスムーズに進むよう日々、奮闘しています。

幼稚園でみんなと歌った園歌。今でも口をついて出てきます。歌や絵本、家族や保育者のぬくもり…幼い日に胸に刻む記憶の大切さを改めて思う今日この頃です。(恵)

きらめき第13号 発行日／2025年7月15日

発行人／森分和基

編集／学校法人岩手キリスト教学園

法人本部：岩手県盛岡市上堂一丁目4番10号

TEL 019-656-0237 FAX019-656-8672

郵便振替：02270-2-129076

名義：学校法人岩手キリスト教学園

表紙の写真：認定こども園めぐみ遠野聖光こども園の子ども礼拝。年長組と年中組の園児たちが讃美歌「主われを愛す（Jesus loves me）」を英語と日本語で元気いっぱいに歌いました。胸の前でつくる「ハート」は「愛する」の意味。神さまに愛され、自分も、周りの人も愛せる人に…。お友達と一緒に口ずさんだ讃美歌が温かい記憶となり、人生の励ましとなったうれしいです。

学園ホームページ <https://iwate-christian.jp>